

新・はたらく犬と かかわる人たち①

福祉でがんばる！ 盲導犬・聴導犬・介助犬



盲導犬は道案内役ではない！

盲導犬は、目の見えない人を道案内して歩いていると思う人がいます。

それはまちがいです。目の見えない人たちは、

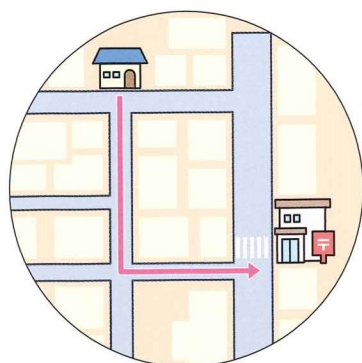
盲導犬に道案内をしてもらっているわけではありません。

盲導犬と道案内

たとえば、目の見えない人が郵便局にいきたいと思ったとき、盲導犬が近くの郵便局の場所を思いだして人を案内するのでしょうか。

カーナビは、郵便局と入力すれば道順をしめて案内してくれますが、盲導犬に「郵便局」といっても、案内はしてくれません。盲導犬は、人が安全に歩けるように手助けはしてくれます。これは、つえをたよりにして道を歩くのと同じです。盲導犬をつかう人は目的地までの地図を思いえがきながら、盲導犬といっしょに歩くのです。

このことについて、たとえば下の地図で、2つ目の角を左に曲がって、その先にある横断歩道をわたったところにある郵便局に行く場合を、具体的に見てみましょう。



プラス1 つえより盲導犬

目が見えない・見えにくい人は、白杖（白いつえ）で地面をさぐりながら歩く。ところが、高い位置にある障害物は、白杖では発見することができない場合がある。盲導犬は、高いところの障害物まで、人に知らせるように訓練されている。

1 いえで家を出てまっすぐ歩いていき、2つ目の角で盲導犬が立ちどまったら、「レフト・ゴー（左へ曲がれ）」と指示する。

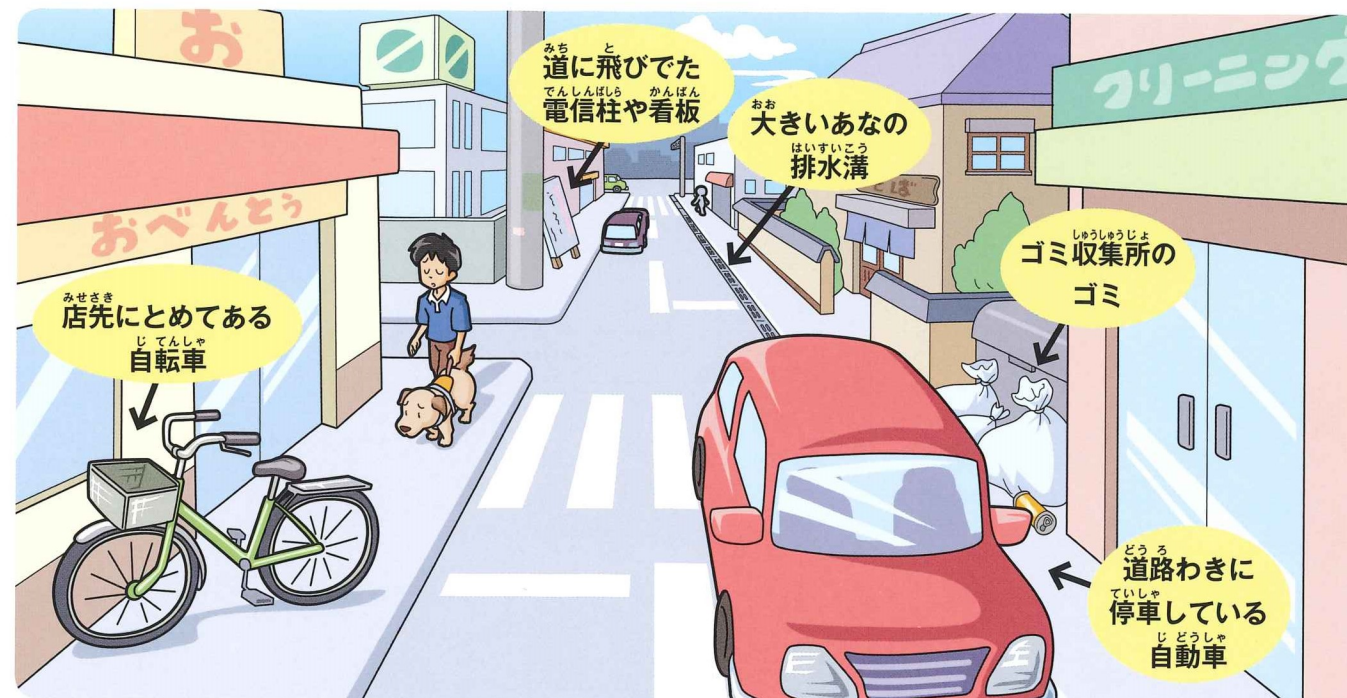


2 車の音がする大きな交差点で盲導犬が立ちどまったら、「ゴー（進め）」と指示し、横断歩道をわたる。



盲導犬の仕事の基本

まちは、目の見えない人にとって障害物だらけ。通行人も歩行のさまたげになります。



このようなさまざまな障害物をよけながら、盲導犬は目の見えない人が安全に歩くのを手伝わなければなりません。下は、そうした盲導犬の仕事の基本です。

目の高さが人よりずっと低い犬にとって、木の枝や車のバックミラーなど高いところにある

障害物に、人がぶつからないようにするのはむずかしいことです。でも、盲導犬には、それができるのです。

また、犬は歩けるけれど、人といっしょにならないで通れないところでは立ち止まって、「ここはいっしょには通れない」と教えます。

● 人の左側について、左によって歩く。



● 電信柱や路上にとめてある自転車などの障害物をよけて歩く。



● 段差の手前で止まって、段差があることを知らせる。
● 十字路など、道の角で止まって、角があることを知らせる。



もうどうけん 盲導犬についてもっと知ろう！

もうどうけん へいきんじゅみょう
 盲導犬の平均寿命は、およそ15歳。

しごと じゅみょう みじか おも ひと
 仕事がいへんだから寿命が短いと思う人もいますが、ふつうの犬とかわりません。
 ていき びょういん けんこうかん り けんこう
 定期的に病院で健康管理もしているので、健康だともいわれています。

もうどうけん いっしょう な 盲導犬の一生の流れ

しょうらいもうどうけん いぬ
 将来盲導犬になる犬は、おおよそ次のように
 せいちょう
 成長していきます。



たんじょう せいご げつ ① 誕生～生後2か月

せいご げつ
 生後2か月になるまでは、母犬のそばで、兄弟姉妹
 といっしょにすごします。



せいご げつ さい ② 生後2か月～1歳

せいご げつ さい
 生後2か月になった子犬は、「パピーウォーカー」
 (→3巻p7)とよばれる子犬の飼育ボランティアの家庭
 で愛情いっぱい育てられます。パピーウォーカーと
 生活をともにすることで、子犬は社会性を身につけて
 いきます。この時期、いろいろなところへ人といっ
 しょに出かけ、人ごみや電車・車の音、雨や雪などに
 ふれて、さまざまな経験をします。

こうして子犬には、人間に対する親しみと信頼感が
 育てていきます。

さい ③ 1歳～2歳くらい

さい
 1歳をすぎると、訓練所にもどり、盲導犬になるた
 めの訓練がはじまります。

訓練の流れ

き ほんく んれん ● 基本訓練

ひと ちゅうい む ひと
 人に注意を向け、人とコミュニケーションをとれ
 るようにする訓練

スワレ、フセ、マテなどの指示にスムーズにしたがうよう
 になる訓練をする。

ゆうどうく んれん ● 誘導訓練

め ふ じ ゆう ひと あんぜん ゆうどう
 まちで目の不自由な人を安全に誘導するための訓練

みち ひり みる だんざ し こうさてん し
 道の左によって歩く、段差を知らせる、交差点を知らせる、
 障害物をよけるなど、盲導犬が視覚障がい者を安全に誘導
 するための4つの誘導動作を訓練する。

● アイマスク・テスト

く んれん すず ぐ あい ひょう か
 訓練の進み具合を評価する

しず くんれんじょ くんれん じやうたぐい ほん か がい でんしゃ
 静かな訓練所での訓練から、住宅街、繁華街、バス、電車
 での訓練へとむずかしくなっていく。最終チェックは、担
 当訓練士以外のスタッフがアイマスクをして道を歩く。

きょうどうく んれん ● 共同訓練

もうどうけん き ぼう し かくしやう しゃ くんれん
 盲導犬を希望する視覚障がい者との訓練
 め ふ じ ゆう ひと ひつよう ちしき み
 目の不自由な人といっしょに生活して、必要な知識を身につける。

プラス1 きょうどうく んれん まえ ひと いぬ 共同訓練の前に人と犬とのマッチング

盲導犬を希望する人の話を聞いてから、その人に合った
 犬を、訓練士が考える。人と犬の性格や生活環境、歩行環
 境、運動量、歩行速度、体格などにより、盲導犬が決まる。

さい さい ④ 2歳～10歳

きょうどうく んれん お
 共同訓練が終わる
 と、卒業です。訓練
 所をはなれ、視覚障
 がい者の自宅での生
 活がはじまります。



プラス1 ひと おおぼえることがたくさん

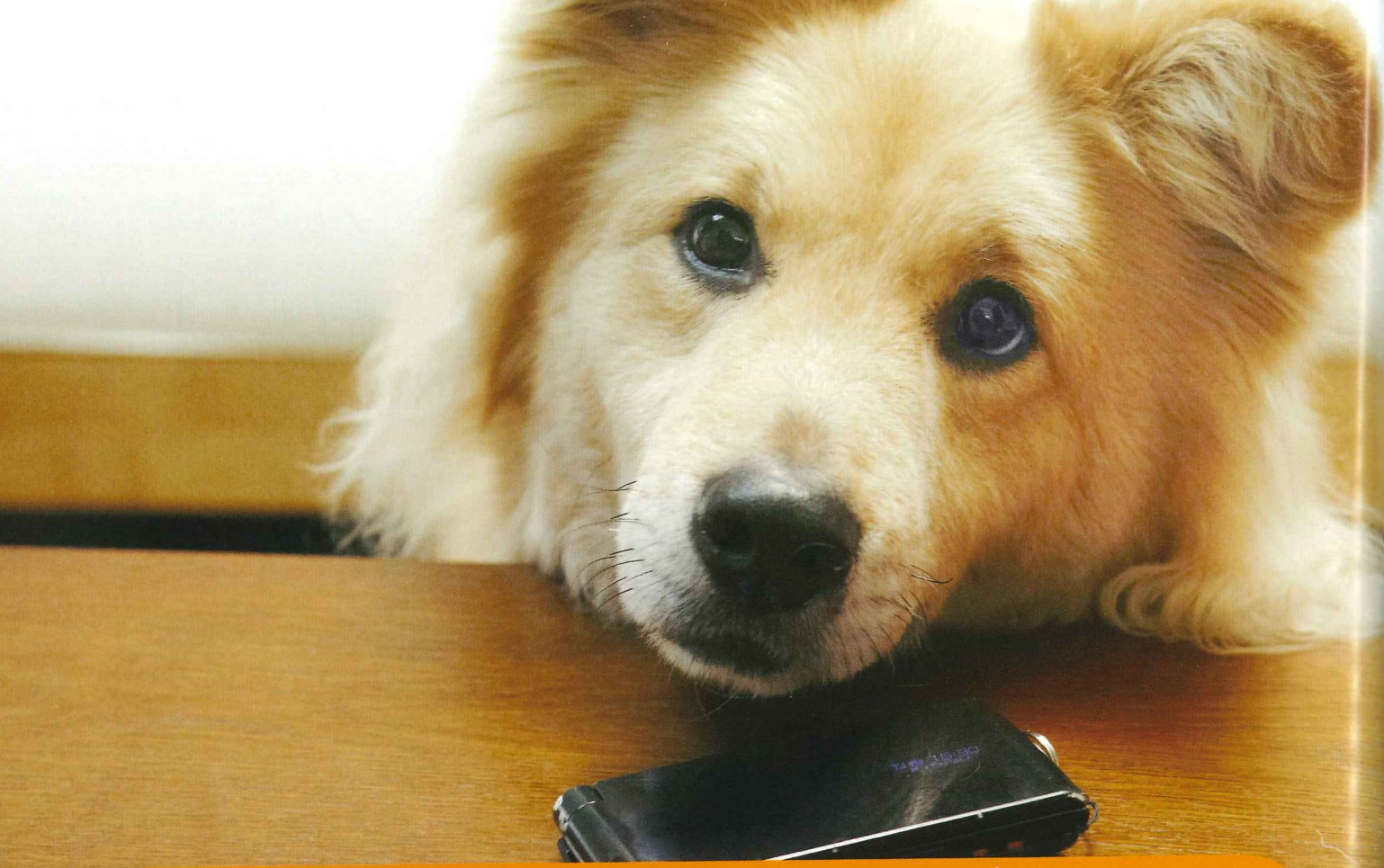
もうどうけん ひと いぬ せいかつ
 盲導犬とくらす人は、犬との生活をうまくやっていくため
 に、たくさんすることを学ばなければならない。盲導犬と安
 全に歩くための方法、転落しないように駅のホームを利用
 する方法、レストランやバス・電車でのマナー、犬のブラッ
 シングの方法、犬の健康チェックの方法、犬の排便の方
 法、そして盲導犬に関する法令などだ。

さい ⑤ 10歳～

もうどうけん さいぜん ご いんたい さい にんげん
 盲導犬は10歳前後で引退します。10歳は、人間で
 は60歳くらいです。引退したあとは、引退した犬を
 世話する引退犬飼育ボランティア(→3巻p10)の家で、
 家族の一員として新しい生活をはじめます。

プラス1 きょうどうく んれん ふ きやうりつ ぶん 盲導犬普及率はイギリスの10分の1

日本 きのう さいぜん さい
 日本の盲導犬普及率はイギリスの10分の1。しかも、
 日本では、視覚障がい者が盲導犬を申しこんでから盲導
 犬と生活するまで、1年間くらい待つ。それに比べてイ
 ギリスでは、たったの3か月。現在日本では、犬とくらしやす
 い住宅環境にしたり、共同訓練を改善したり、盲導犬の
 繁殖をふやしたりするなどして、より多くの希望者が盲導
 犬とくらすようになることがのぞまれている。



聴導犬についてもっと知ろう!

聴導犬は「聴導犬」と書かれたケープを身につけています。
現在、日本ではたらいっている聴導犬の数は、およそ70頭です。

聴導犬の歴史

聴導犬のはじまりは、1975年のアメリカです。ある女性が「家のなかで鳴る音に反応するように、犬を訓練してください」と、ラジオ番組に投稿したことがきっかけでした。

日本では、1981年の国際障害者年に聴導犬委員会が発足し、日本の聴導犬の歴史がはじまりました。

1983年に4頭のモデル犬を育成。1984年に埼玉県の聴覚障がい者に貸しだされた犬が、日本ではじめての聴導犬です。犬種は、シェットランド・シープドッグでした。

音をとどけるパートナー

聴導犬は、人の指示がなくても自分で考えて音を知らせることができます。ドアのチャイムや目ざまし時計などの生活に必要な音知らせたり、人を音の鳴っている場所まで連れていたり、車のクラクションや自転車のベル、火災報知器や非常ベルの警報音などを知らせたりして、人の安全を守るのが聴導犬の仕事です。

また、聴導犬は「聴導犬」と書かれたケープをつけているので、聴導犬を連れた人が聴覚障がい者であることを、まわりの人に知らせる役割もあります。

聴導犬の音の知らせ方

聴導犬が耳の聞こえない・聞こえにくい人に音を知らせる方法は、タッチです。タッチの仕方也有很多あります。次は、その1つの例です。

- 人がいすにすわっている場合、前足をひざの上に軽くのせる。



- 人がねているときには、ふとんの上に軽く乗る。



- ある歩いているときは、後ろ足で立ちあがって知らせる。



はなれたところで音がしたら、タッチして人に伝えたくて、音のする場所まで連れていくこともあります。

聴導犬に適した性格

聴導犬に向いている性格は、人といっしょにすることが好き、おだやかで素直、という点は盲導犬と同じです。それにくわえて聴導犬は、自分で考えることが必要です。

人のことをしっかりと見ていて、落ち着いている犬が聴導犬に向いています。

一方、攻撃的で人にほえる、落ち着きがない、わがままな犬は、補助犬のどれにも向いていません。とくに聴導犬に向いていない性格は、音に過敏に反応してしまうことです。

新・はたらく犬と かかわる人たち②

捜査・探査でかつやく! 警察犬・災害救助犬・探知犬



写真で見る警察犬

日本で警察犬に指定されている7犬種は、能力が高く、ハンドラーのいうことをよくきく犬たちです。また、障害物を飛びこえたり、犯人をいかくするために必要な体格や体力もそなえています。

エアデール・テリア

もともとカワウソの猟を得意とする猟犬。のんびりした動きで、人の指示をよくきく。イギリスやカナダで多くかつやくしている。



ゴールデン・レトリバー

もともとは猟犬で、人がしめつけた鳥などを回収するためにつかわれていた。おだやかで、人のためによくはたらく。盲導犬や介助犬、麻薬探知犬としてもかつやくしている。



ボクサー

闘犬、猟犬としてつかわれていた犬。動きがすばしこく、ものおぼえがよく、人のいうことをよくきく。

ドーベルマン

警察犬や護身用の番犬としても能力を発揮。飼い主によくなつき、人の指示をよくきく。軍用犬としても知られている。



ラブラドル・レトリバー

ゴールデン・レトリバーと同様、もともとは猟犬。忠実でおだやかで、気持ちが安定している。盲導犬や介助犬、麻薬探知犬としてもかつやくしている。



小さくても警察犬!

囃託犬には、指定犬種以外の柴犬やトイプードルなどもある。2011年、日本初のトイプードル警察犬が鳥取県で誕生。大型犬が入っていないようなせまいところにも入って活動。かわいらしい見た目のため、警察の行事にも参加し、警察のイメージアップに貢献してきた。

また、チワワの警察犬も奈良県で誕生。体重はなんと3.5kgと、世界最小の警察犬だ。さらに2013年、ミニチュア・ダックスフンドの警察犬が熊本県で誕生した。



ジャーマン・シェパード

ドイツの山岳地方の牧羊犬を、優秀な軍用犬をつくるために改良した犬。感覚がすどく、いつでも落ち着いていて、人に忠実。



コリー

もともとは牧羊犬で、とてもかしこく、おだやかな性格。

日本の警察犬の歴史

警察犬は、1896年にドイツの警察で世界ではじめて導入された。その後、ベルギーやイギリスなどでも警察犬が活用されるようになった。日本では、1912年に警察犬を導入し、イギリスからコリーとラブラドル・レトリバーを購入した。だが、太平洋戦争がはげしくなり、1945年に警察犬制度は廃止となった。戦後の1952年、一般の家庭でかわれている犬を警察犬としてつかう囃託犬制度が開始された。その後1956年には、現在のような警察の鑑識課が飼育・訓練・管理を担当する「直轄犬制度」が発足した。



災害救助犬のはたらくようす

災害救助犬は、どんなに混乱している現場でも、落ち着いて人のにおいをかぎわけ、とじこめられている人をさがさなければなりません。その活動のようすを見てみましょう。

出動

災害が発生すると、現地の警察や消防によって対策本部がつけられます。日本では、公的機関が育成・訓練した災害救助犬はほとんどいないので、民間団体が育成した災害救助犬が出動します。ふつうは、災害救助犬3頭とハンドラー3名、隊長1名が1チームとなって出動し、右のように捜索活動をおこないます。

ミニクイズ

犬の集中力がつづくのはどれぐらいの時間？

A 20分 B 1時間 C 3時間

正解：A

災害救助犬の集中力はあまり長くつづかないが、しばらく休憩すると、また捜索活動をおこなえる。3頭が交代で捜索すると、4時間ぐらい捜索をつづけられる。

- 3頭のうち、1～2頭が捜索をおこなう。
- このころ1頭は待機。
- 待機中の救助犬のハンドラーは、隊長とともに捜索中の救助犬を観察。
- 1頭が行方不明者発見の反応をしたら、同じ場所をもう1頭に確認させる。
- 2頭目の反応が確実でなければ、同じ場所を3頭目に確認させる。
- 2頭が同じ場所で反応したら、その場所に行方不明者がいる可能性が高いと判断する。
- 消防・警察・自衛隊など救助を実際におこなう実動部隊にその位置を知らせ、人命救助活動をはじめめる。
- 救助犬がまったく反応しない場合は、ここには生存者はいないと判断し、次の捜索場所に移動する。

写真で見る災害救助の現場

ここでは、日本の災害救助犬がかつやくした実際の現場の写真を年代順に見てみます。日本の災害救助犬が、海外でかつやくすることもあります。

日本での活動

2011年、
東日本大震災

みわたすかざりガレキでうめ
つくされた場所を捜索。



日本での活動

2014年、
広島豪雨災害

斜面がくずれた現場でかつやくする災害救助犬。





日本での活動

2016年、熊本地震

警察や自衛隊が土砂を取り
のぞき、災害救助犬が確認を
おこなう地道な活動が
つづいた。

プラス1 おとひとあふれる現場

災害救助犬の職場は、家屋が倒壊しているような足場の悪いところ。大勢の人がやってきて、消防車や救急車のサイレンの音やヘリコプターの音なども鳴りひびいている。そんななかで、災害救助犬は集中して人のにおいをさがす。人のにおいを感じたら、ほえたり前足でひっかいたりして、ハンドラーに「ここに人がいるよ」と教える。ハンドラーは、犬の小さな変化も見落とさないよう集中する。

プラス1 死んでから8時間くらいは生きていたときのにおい

人は死んでも、8時間くらいは生きていたときのにおいがすると考えられている。災害救助犬は、そのにおいに反応。しかし、死亡後8時間以上たつと、遺体のにおいになり、救助犬はとまどったような反応をする。ハンドラーは、救助犬のこのような反応もきちんと見わけ、生存者を一刻も早く救助できるよう、救助犬をリードしなくてはならない。

海外での活動
2009年、インドネシアのスマトラ島沖地震
日本の救助犬チームが
国連救助部隊として
初参加。



プラス1 もっとも有名な災害救助犬

1800年代のはじめに、スイスのサン・ベルナル修道院でかつやくしたバリーは、世界でもっとも有名な災害救助犬。アルプスという雪深い山岳地帯で40人以上の人命を救ったことで、世界中で知られる山岳救助犬となった。また、どうくつで凍死しかけていた少年の上におおいかぶさって、自身の体温で少年を温めたあと、少年を背中に乗せてサン・ベルナル修道院まで運び、少年の命を救ったことも有名だ。

日本では、ジャーマン・シェパードのレイラが有名。2011年3月11日の東日本大震災のときに、岩手県大船渡の海岸を1週間、ハンドラーといっしょに自衛隊にまじって捜索しつづけた。残念ながら、生存者は見つからなかった。

まもなくレイラは、予定より早く救助犬を引退することになった。そのときの過労のせいか、余震のストレスのせいではないかといわれている。